

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館 1階ばら		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0191000082-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ケアサービス(株)の理念である「笑顔で、明るく、優しく」を基本としており、全職員で決定したケア目標「私たちは地域の方々へ感謝し交流を大切にします。入居者様1人ひとりに寄り添い耳を傾け笑顔で接します。入居者様が表現できない時は気持ちを汲み取り穏やかに生活できるよう支援します。食事は和食中心の献立で国産の新鮮な食材を使用し、美味しいと評判である。誕生日には本人の好きなメニューを昼食に取り入れ楽しんでいただいている。11月から全員、訪問診療、訪問看護ステーションを受けることに体制を整え、緊急時の対応も密に連携がとれ入居者・職員・家族様、安心しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム北海ハウスみずほ館」は、自然が豊かで静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。近隣の幼稚園や介護福祉施設と交流する機会もある。当事業所は開設後12年目に入り、要介護度が高い利用者の身体的な負担も考慮し、外部からの来訪で幼稚園児の歌やボランティアによるギター演奏、カラオケなどが楽しめるように工夫している。自治会に地域版の広報を送り、回覧板を通して事業所の取り組み内容を発信し住民の参加も得られている。消防署員と地域住民の協力をもとに避難訓練を行っているが、今年は感染症防止から自主訓練を実施している。運営推進会議も状況を見て会議を開催して意見を交換したり、書面会議で事業所の取り組み内容を報告している。ケア目標を定期的に更新する中で、各職員の達成度を共有し内容も深められている。そのことが利用者へ寄り添う細やかな対応になり、家族にも喜ばれている。訪問診療を軸とした協力医療機関との24時間体制の環境で看取りを行い、職員が利用者の尊厳に寄り添う温かなケアは質的な向上にもつながっている。感染防止から事業所内で楽しめる企画をし、昔の映画鑑賞やトランプ、百人一首、オセロ、パズルなどのゲームで気分転換を図っている。また時には、うな特重や寿司弁当などの豪華な食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の運営理念は勿論、事業所独自のケア目標を職員全員参加で作成し、毎日の朝礼で全職員が確認し、日々達成するように意識している。	理念に沿って作成している事業所独自のケア目標を定期的に更新している。利用者の尊厳と地域との交流を基本に現状に合わせた目標を話し合う中で意識が深まり、一人ひとりに寄り添うケアにつながっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染で例年の活動が出来ず自粛明7月からは毎朝の散歩で近隣の方と挨拶。救命講習、避難訓練の様子はみずほ便りで自治会回覧した。ボランティアさん、幼稚園の七夕祭りは来年開催できることを望んでいる。	幼稚園児やボランティアの来訪で歌や演奏などを楽しみ、交流の場になっている。散歩中に近隣宅庭の花を楽しみながら住民と会話をし、また収穫した野菜の提供を受けることもある。今回は感染防止のため外部者との交流を控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルス感染の影響で職員の外部研修は参加できなかったが、内部研修中心の研修に力を入れ専門的知識、関わり方も理解している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染で3月・5月・11月は開催できず議題の書類を委員の皆様へ送付致した。入居者の状況、事故報告書、コロナウイルス感染でみずほ館が実施している事等報告した。家族全員に会議録を送付し次回の会議日程を案内している。	運営推進会議は外部の場所で2回開催し、利用者の状態、感染症、防災、看取り、また認知症と疾患についてミニ勉強会を行っている。感染症対策のため開催が難しい時は書面会議とし、議題や取り組み内容を報告書として全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡をとり、疑問点、わからないことがあれば、市に外向き相談解決している。	感染症対策時の避難訓練実施について消防署に確認し自主訓練としている。徘徊認知症高齢者SOSネットワークに登録し、地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座の情報を得て協力することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待は絶対行わないという意識を高く持ち、外部研修・内部研修で知識を理解している。身体拘束は理解しやすいが、心理的虐待になる言葉遣いは全職員に徹底して周知している。	身体拘束廃止に向けた委員会を3か月ごとに開催し、議事録で共有している。研修では禁止の対象となる具体的な行為を確認している。特に利用者の尊厳を傷つけるような言葉遣いや対応を話し合い、声のトーンにも注意し、日々確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は内部研修で徹底した虐待防止、職員会議で禁止語の言葉・行為を全職員が意識している。		

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年は新型コロナウイルス感染で参加できなかったが例年は外部研修に参加したり、あおいの会(江別グループホームの会)で勉強会を開いたりする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム入居時の契約締結、解約、改定時の説明は利用者が理解するのは難しいが、家族等には理解が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は新型コロナウイルス感染でほとんどの家族様には手紙を出したり、電話を掛けたり、メールを送信している。2ヶ月に1度「みずほ便り」を送付しており好評である。	家族とは来訪時や電話で状態を話し合い、ケアや介護計画に反映している。また日頃から家族の相談事を聴く中で信頼関係を築いている。特に感染症の流行時から連絡を密に行い、利用者の精神的な面に配慮して1階事務所で会える場も設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案、要望を話し合っている。管理者との面談を年3回実施し個々の思いや疑問点、悩み等聞く場を設けている。	職員の思いを把握し、外部から講師を招いて感染対策時のストレス緩和に向けた研修を行っている。個別面談では自己目標の達成度を話し合い、次回に向けて支えている。業務の中で日々思いを聞き、楽しく働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員が楽しく働きやすい環境づくりを心掛けている。職員個々の目標達成に向けての努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は新型コロナウイルス感染で外部研修参加はできなかったが来年度はひとりでも多くの職員を外部研修に参加させ、受講した職員は会議で報告発表をすることで意識向上。今年は1度外部から講師を招き、内部研修を実施できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、市内のグループホームでグループホーム交流会、講演会を開催しており、委員の職員は月1回の会議を行っている。また月1回各グループホームの管理者・職員が集まって意見交換を行いサービス向上に繋げている。今年は新型コロナウイルス感染で開催できなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、本人、家族等の希望や不安などを伺い、必要な支援についての内容を丁寧に伝えることで、安心して頂く話し合いを持っている。入居して間もない時には距離感を大切にコミュニケーションを取るようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等からの聞き取りを行い、ホームで出来る事出来ない事の説明をして、情報の提供を行い、適切な支援に繋がるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等に対して、第一に不安を取り除き、ホームに慣れて頂くことに力を入れている。本人の本来の性格や生活の仕方を見極め対応していくようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において本人のできる部分を活かして食器拭き、洗い、盛り付け、洗濯物たたみなどの役割分担をし、お互いの信頼関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今はコロナ禍にあり、面会を制限しているが、来所された際は日常生活の様子などを伝えたり居室で過ごして頂いている。また、家族から職員に対して感謝の手紙や励ましの言葉を頂いたりと良好な関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で過ごしていた時のなじみの物で生活できる居室作りをしている。また、家族と自由に買い物や外食など馴染みの場所へ出掛けられるよう支援している。	知人や友人の来訪があり、友人と喫茶店に行く利用者もいる。誕生日には希望に応じて職員同行で温泉に出かけている。今年は感染症対策のため事業所内で懐かしい映画や動物のDVDを鑑賞し、トランプ、麻雀など馴染みの遊びを取り入れて楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティやお手伝いなどを通じて、入居者同士の関係を深めたり、一人で居る入居者にはスタッフが関わりを持ったりして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族等からの相談があれば、応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを聞くことや家族からの情報、日誌からの情報を活用し、また、職員同士の情報を共有して一人ひとり支援出来るようにしている。	利用者の意向を汲み取っている。センター方式(D-2)シートを独自の様式に変更し、暮らしの様子に趣味、嗜好などを記入している。今後も変化を追記して介護計画に反映できるよう考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人から話を聞き、利用していた施設等があればそこから情報を得ている。入居した後も会話や行動を観察し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、会話や行動を見て出来る事、出来ない事を把握するようにしている。それをもとに職員同士で話し合ったり、会議で提案して、本人に合ったケアを行えるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員会議等で話し合い、介護計画に反映させている。家族にも意向等の聞き取りを行いそれも含めて職員間で話し合い作成している。	状態が安定している場合は6か月期間で見直し、会議で評価を行い計画作成者担当者がモニタリング表にまとめている。それらをもとに利用者担当職員が作成した計画案を確認し、本人、家族の意向を反映して介護計画書を完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には誰が見ても分かるよう、アンダーラインやマーカーで見やすくする等して情報を共有して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを提供しているが、支援不足と思われた時には情報を仕入れている。その支援が可能であれば、家族とも話し合い出来る限り取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍となる前は、ボランティアの方々による歌などで楽しんで頂いていた。避難訓練等も自治会の協力を得て行っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れ、通院または訪問診療により適切な医療を受けることが出来るように支援している。	家族とも話し合い協力医療機関を変更し、内科医の訪問診療を受けている。感染防止にもなり家族の安心感につながっている。感染症対策のため主治医と相談しながら薬などの手配は職員が代行している。	

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	みずほ館と訪問看護ステーションの契約で入居者全員に訪問看護師が来て、日常的な健康管理から些細な相談まで行い、連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入居中の情報を病院に提供している。入院中も面会で入居者が安心してできるように関わり、病院側から退院ができる状況の連絡があれば、退院時カンファレンスを実施して本人が快適に過ごせる環境を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者によっては、最初の契約の際に家族の意向を聞きどのようにするか決めている。訪問診療、訪問看護にも重度化、終末期のあり方を情報共有できるようにしている。	「重度化した場合の対応指針」に対応が難しい内容も詳細に明記し、契約時に同意を得ている。主治医の判断と家族の意向で看取りを行う際には、個別に同意書を作成している。リーダーを中心に、その都度学びながら看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルをもとに対応を周知させている。職員会議、研修、救命講習等で実践力を身に付くようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。コロナ禍前は、開催時には消防、自治会の方にも参加して頂いている。災害時のマニュアル、備品も用意している。	消防署員、自治会役員、近隣住民の協力で火災を中心に訓練を行い、その際に地震、水害時の対応についての指導もある。今年は防災担当職員を中心に自主訓練を行い、ケア別の対応について話し合い記録で確認できるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念やケア目標、研修で意識するようになっている。名前の呼び方では事情がなければ、苗字にさん付けで呼ぶように統一している。	内部研修では接遇や尊厳について時間をかけている。また、不適切な声かけなどがあれば、その都度注意するようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えを傾聴し、言葉を遮ることをせず、表現できない時は身振り手振りなど様々な方法で表現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので決めている部分もあるが、従わせることはなく、一人ひとりのペース、やりかたや動き方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った身だしなみを行い、季節に合ったおしゃれが出来るように支援している。		

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材を使い、メニューを考え提供している。誕生日は希望を聞き好きな物を提供している。調理員が居るので料理はほとんどしていないが、盛り付けや片付けは入居者と共に行っている。	献立は利用者の希望を聞き作成している。誕生日には外食をすることも多いが、外出が制限される中でも出前寿司やうな特重など、事業所内で楽しめるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や水分量を会議等で話し合い提供している。食べ方や飲み方にも注意して声掛けや介助の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助など一人ひとりにあった口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、場合によっては声掛けで誘導している。また、会議等で布パンツのままで良いのかどうか、リハビリパンツやパットの使用状況を確認し、一人ひとりにあった物を提供している。	昼間はトイレでの排泄を支援しており、直接的な表現を避けるように声かけを行い誘導している。職員会議では利用者の体調なども含めて検討し、リハビリパンツから布パンツへ変更しながら自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄状況を確認し、必要に応じて下剤や坐薬を使用している。食事では一汁三菜を基本とし、毎日ヨーグルトもしくはヤクルトを摂取している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安としているが、本人の体調や気分を考慮し支援している。無理な入浴はせず、中止したり別日にしたりしている。	利用者の希望によって入浴の順番や時間などを決め、車いすや看取りの利用者もシャワー浴で入浴をしている。職員との会話や歌をうたったり、全国の温泉地の入浴剤を使用することで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く休みたい方、遅くに休みたい方等、一人ひとりの生活リズムに合わせて就寝介助の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬の情報を添付しており、すぐに確認できるようにしている。また、塗布する薬についても一人ひとりボードに書き出し、職員が迷わず塗布することができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を見つけ、見守ったり一緒に行ったりしている。外に出るのが難しい時には、窓からの景色を楽しんだり、テレビからの情報を見て楽しむようにしている。		

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は誕生日には外食、温泉に行ったりなど一人ひとりに合わせて行っていた。新型コロナウイルスの感染防止対策により、病院への受診を除き、外出は控えていた。みずほ館周辺の散歩時にはマスクを着用して散歩を行った。	昨年は事業所の裏にあるパークゴルフ場や近所の公園などを日常的に散歩している。さらに町内の花壇がある家の庭にお邪魔して、花を見るだけでなく会話やお茶を飲んで楽しんでいる。春には花見、秋には紅葉、冬にはイルミネーションなどを楽しむための外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの症状により、ホームが管理している方がほとんどだが、本人が所持している方もいる。本人が欲しい物がある時は家族または職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキが届いた際には、渡している。本人が読むこと、理解が難しい場合には代わりに読み上げるようにしている。携帯電話を所持している入居者もあり、自由に使っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度になるように、エアコンや暖房を使い調整している。窓から外を見たり、季節に合わせた装飾をして、居心地よく過ごせる様になっている。	クリスマスツリーやひな人形などを設置し、季節感のある空間づくりをしている。居間は明るくパズルなどのゲーム用具が置いてあり、職員と楽しむことができ居心地のよい場所になっている。さらにエアコンや暖房、空気清浄機能付の加湿器を設置し、温度や湿度等の環境にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃、リビングに集まることが多く、食事、アクティビティ、会話を楽しんでいる。座る席などは自由に選べるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居の際に馴染みの物や思い出の品、好みの物を身の回りに置き、居心地よく安心して過ごせるように家族にも協力して頂いている。	居室には長い物干しが設置されており、洗濯物を干したり、衣服をたくさん掛けることができる。利用者は仏壇や家族の写真、ぬいぐるみ、テレビ、これまでの生活で使用していた椅子などを持ち込み、居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事を考え、トイレの場所に張り紙をしたり、タンス、収納ケースに中身が分かるようにラベルを張る様にするなどして、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館 2階ゆり		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ケアサービス(株)の理念である「笑顔で、明るく、優しく」を基本としており、全職員で決定したケア目標「私たちは地域の方々へ感謝し交流を大切にします。入居者様1人ひとりに寄り添い耳を傾け笑顔で接します。入居者様が表現できない時は気持ちを汲み取り穏やかに生活できるよう支援します。食事は和食中心の献立で国産の新鮮な食材を使用し、美味しいと評判である。誕生日には本人の好きなメニューを昼食に取り入れ楽しんでいただいている。11月から全員、訪問診療、訪問看護ステーションを受けることに体制を整え、緊急時の対応も密に連携がとれ入居者・職員・家族様、安心しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000082-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の運営理念は勿論、事業所独自のケア目標を職員全員参加で作成し、毎日の朝礼で全職員が確認し、日々達成するように意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染で例年の活動が出来ず自肅明7月からは毎朝の散歩で近隣の方と挨拶。救命講習、避難訓練の様子はみずほ便りで自治会回覧した。ボランティアさん、幼稚園の七夕祭りは来年開催できることを望んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルス感染の影響で職員の外部研修は参加できなかったが、内部研修中心の研修に力を入れ専門的知識、関わり方も理解している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染で3月・5月・11月は開催できず議題の書類を委員の皆様へ送付致した。入居者の状況、事故報告書、コロナウイルス感染でみずほ館が実施している事等報告した。家族全員に会議録を送付し次回の会議日程を案内している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡をとり、疑問点、わからないことがあれば、市に出向き相談解決している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待は絶対行わないという意識を高く持ち、外部研修・内部研修で知識を理解している。身体拘束は理解しやすいが、心理的虐待になる言葉遣いは全職員に徹底して周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は内部研修で徹底した虐待防止、職員会議で禁止語の言葉・行為を全職員が意識している。		

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年は新型コロナウイルス感染で参加できなかったが例年は外部研修に参加したり、あおいの会(江別グループホームの会)で勉強会を開いたりする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム入居時の契約締結、解約、改定時の説明は利用者が理解するのは難しいが、家族等には理解が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は新型コロナウイルス感染でほとんどの家族様には手紙を出したり、電話を掛けたり、メールを送信している。2ヶ月に1度「みずほ便り」を送付しており好評である。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案、要望を話し合っている。管理者との面談を年3回実施し個々の思いや疑問点、悩み等聞く場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員が楽しく働きやすい環境づくりを心掛けている。職員個々の目標達成に向けての努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は新型コロナウイルス感染で外部研修参加はできなかったが来年度はひとりでも多くの職員を外部研修に参加させ、受講した職員は会議で報告発表をすることで意識向上。今年は1度外部から講師を招き、内部研修を実施できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、市内のグループホームでグループホーム交流会、講演会を開催しており、委員の職員は月1回の会議を行っている。また月1回各グループホームの管理者・職員が集まって意見交換を行いサービス向上に繋げている。今年は新型コロナウイルス感染で開催できなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、本人、家族等の希望や不安などを伺い、必要な支援についての内容を丁寧に伝えることで、安心して頂く話し合いを持っている。入居して間もない時には距離感を大切にコミュニケーションを取るようになっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等からの聞き取りを行い、ホームで出来る事出来ない事の説明をして、情報の提供を行い、適切な支援に繋がるよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等に対して、第一に不安を取り除き、ホームに慣れて頂くことに力を入れている。本人の本来の性格や生活の仕方を見極め対応していくようになっている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において本人のできる部分を活かして食器拭き、洗い、盛り付け、洗濯物たたみなどの役割分担をし、お互いの信頼関係構築に努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今はコロナ禍にあり、面会を制限しているが、来所された際は日常生活の様子などを伝えたり居室で過ごして頂いている。また、家族から職員に対して感謝の手紙や励ましの言葉を頂いたりと良好な関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で過ごしていた時のなじみの物で生活できる居室作りをしている。また、家族と自由に買い物や外食など馴染みの場所へ出掛けられるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティやお手伝いなどを通じて、入居者同士の関係を深めたり、一人で居る入居者にはスタッフが関わりを持ったりして支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族等からの相談があれば、応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを聞くことや家族からの情報、日誌からの情報を活用し、また、職員同士の情報を共有して一人ひとり支援出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人から話を聞き、利用していた施設等があればそこから情報を得ている。入居した後も会話や行動を観察し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、会話や行動を見て出来る事、出来ない事を把握するようにしている。それをもとに職員同士で話し合ったり、会議で提案して、本人に合ったケアを行えるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員会議等で話し合い、介護計画に反映させている。家族にも意向等の聞き取りを行いそれも含めて職員間で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には誰が見ても分かるよう、アンダーラインやマーカーで見やすくする等して情報を共有して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを提供しているが、支援不足と思われた時には情報を仕入れている。その支援が可能であれば、家族とも話し合い出来る限り取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍となる前は、ボランティアの方々による歌などで楽しんで頂いていた。避難訓練等も自治会の協力を得て行っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れ、通院または訪問診療により適切な医療を受けることが出来るように支援している。		

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	みずほ館と訪問看護ステーションの契約で入居者全員に訪問看護師が来て、日常的な健康管理から些細な相談まで行い、連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入居中の情報を病院に提供している。入院中も面会で入居者が安心してできるよう関わり、病院側から退院ができる状況の連絡があれば、退院時カンファレンスを実施して本人が快適に過ごせる環境を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者によっては、最初の契約の際に家族の意向を聞きどのようにするか決めている。訪問診療、訪問看護にも重度化、終末期のあり方を情報共有できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルをもとに対応を周知させている。職員会議、研修、救命講習等で実践力を身に付くようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。コロナ禍前は、開催時には消防、自治会の方も参加して頂いている。災害時のマニュアル、備品も用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念やケア目標、研修で意識するようになっている。名前の呼び方では事情がなければ、苗字にさん付けで呼ぶように統一している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えを傾聴し、言葉を遮ることをせず、表現できない時は身振り手振りなど様々な方法で表現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので決めている部分もあるが、従わせることはなく、一人ひとりのペース、やりかたや動き方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った身だしなみを行い、季節に合ったおしゃれが出来るように支援している。		

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材を使い、メニューを考え提供している。誕生日は希望を聞き好きな物を提供している。調理員が居るので料理はほとんどしていないが、盛り付けや片付けは入居者と共に行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や水分量を会議等で話し合い提供している。食べ方や飲み方にも注意して声掛けや介助の支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助など一人ひとりにあった口腔ケアをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、場合によっては声掛けで誘導をしている。また、会議等で布パンツのままで良いのかどうか、リハビリパンツやパットの使用状況を確認し、一人ひとりにあった物を提供している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄状況を確認し、必要に応じて下剤や坐薬を使用している。食事では一汁三菜を基本とし、毎日ヨーグルトもしくはヤクルトを摂取している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安としているが、本人の体調や気分を考慮し支援している。無理な入浴はせず、中止したり別日にしたりしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く休みたい方、遅くに休みたい方等、一人ひとりの生活リズムに合わせて就寝介助の支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬の情報を添付しており、すぐに確認できるようにしている。また、塗布する薬についても一人ひとりボードに書き出し、職員が迷わず塗布することができるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を見つけ、見守ったり一緒に行ったりしている。外に出るのが難しい時には、窓からの景色を楽しんだり、テレビからの情報を見て楽しむようにしている。			

グループホーム北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は誕生日には外食、温泉に行ったりなど一人ひとりに合わせて行っていた。新型コロナウイルスの感染防止対策により、病院への受診を除き、外出は控えていた。みずほ館周辺の散歩時にはマスクを着用して散歩を行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの症状により、ホームが管理している方がほとんどだが、本人が所持している方もいる。本人が欲しい物がある時は家族または職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキが届いた際には、渡している。本人が読むこと、理解が難しい場合には代わりに読み上げるようにしている。携帯電話を所持している入居者もあり、自由に使っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度になるように、エアコンや暖房を使い調整している。窓から外を見たり、季節に合わせた装飾をして、居心地よく過ごせる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃、リビングに集まることが多く、食事、アクティビティ、会話を楽しんでいる。座る席などは自由に選べるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居の際に馴染みの物や思い出の品、好みの物を身の回りに置き、居心地よく安心して過ごせるように家族にも協力して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事を考え、トイレの場所に張り紙をしたり、タンス、収納ケースに中身が分かるようにラベルを張る様にするなどして、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム北海ハウスみずほ館

作成日：令和 2年 12月 11日

市町村受理日：令和 2年 12月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の状況に応じて本人の思いや意向、心身の状態を把握できるようにみずほ館独自のアセスメントシートを作成しているが、ケアプランに反映するなど活用できていない。	本人の趣味・嗜好の情報が具体的に分かった時には、アセスメントシートに記入し、それがケアプランに繋がるものであるようであれば活用していきたい。	現行のアセスメントシートの趣味や嗜好の項目をより詳しく書けるように変更し、アセスメントシートに記入していく。それがケアプランに繋がるものであれば、会議等で話し合い、反映する。	24ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。